

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名: すみれ)

事業所番号	0670101161		
法人名	医療法人 東北医療福祉会		
事業所名	フラワー小姓町		
所在地	山形県山形市小姓町7番15号		
自己評価作成日	平成24年10月20日	開設年月日	平成14年 7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ADLが自立されている方がほとんどである為、その分コミュニケーションの取り方に注意しています。入居者の方一人ひとりの性格等に配慮しながら穏やかな雰囲気保てるように声掛けております。皆さん笑顔で過ごされることが多く元気に過ごされておりますので今後の楽しく過ごしてもらえるように支援していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

既存の建物を利用しているため、様々な問題点は存在するが、職員の工夫により改善されている。管理者及び職員は、開設から10年が経過し、環境の変化や高齢化に伴い、様々な課題が生み出されているが、前向きに捉え、日々事業所の「基本理念」の実現に向け努力している。「その人らしいあり方」を目指し、単なる介護ではなく、役割や楽しみ事等の支援を重視し、計画の課題も、「プロブレム」と「グッドネス」を位置付け、利用者の従前の暮らしの継続の支援を大切にしている。協力医療機関との相談や往診等連携も充実しており、適切な医療を受けられる環境が整備されている事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合 オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 24年 11月 19日	評価結果決定日	平成 24年 12月 11日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームとユニットのものと掲示している。確認できる所に掲示し、ユニットの個性を活かしそれをケアに反映させている。	事業所の理念を見やすい場所に掲示し、理念の実践の為の行動目標を、確認と振り返りをおこなって毎年職員で検討し共有を図っている。各ユニットの職員はその行動目標を常に意識し、普段のケアの中での実践に向け努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	玄関を開放し、どなたでも立ち寄って頂けるようにしている。入居者様との散歩時は地域の方々にあいさつしたり、近所の商店に買い物に行く等して近隣の方と交流できる様努めている。	地域に事業所の取組等を記載したホームの広報紙を配布する事で、地域への理解を広げている。町内会に加入し様々な行事に参加し、買物や散歩の際は地域との挨拶等を大切にして、地域との交流を深めている。小学校の訪問や、ボランティアの訪問等を受け地域との交流の拡大に努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの広報誌を作成し、地域の方々に配布し、ホームの生活の様子や取組を理解して貰えるように取り組んでいる。また、運営推進会議を通して、町内会の方々と意見交換している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、町内会長、地域包括支援センターの方々からの意見を頂き、反映させている。また、運営推進会議を開催した結果を職員で共有し改善に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、地区の代表と民生委員、地域包括職員で構成され、事業所の事故事例や様々な取組等報告が行われている。委員からは事業所の地域へのアピールや建物の構造等、建設的な意見が出され双方向的な会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、介護相談員の来訪があり、サービス向上のための意見交換を行っている。市町村との協力関係を築けるよう努めている。	介護相談員を通じて、利用者の意見や要望、事業所の運営に関する意見等頂いている。個別の案件には市の窓口と連絡を図り、協力関係を大切に課題解決を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>日中はカギをかけずに自由に入出りできるように解放している。身体拘束においてはどこまでが拘束なのかなどそれぞれ認識が違うようなので、今後、内外部での研修などを利用し学んでいきたい。</p>	<p>身体拘束については入職時の研修とマニュアル等で職員に周知を図っている。利用者各々の行動障害を引き起こす原因について、ユニット会議等で話し合い、改善の為の方法を検討し、寄り添い見守りを強化する事で安全を確保し身体拘束をしないで過ごす工夫を行っている。管理者は過去の様々な事例を基に事業所の実情に応じた勉強会の開催を検討している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>言葉や対応には各スタッフ注意を払っているが、詳しい虐待の内容は曖昧です。特に勉強会もしておらず日頃のケアにも虐待にあたるのでは？という検討も踏まえての話し合いや外部の研修がある際には、積極的に参加していきたい。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員間でも知識習得者は大分ばらつきがあると思われる。外部の研修やホームでの勉強会の機会をつくるなどして今後習得していきたいところである。</p>	/	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居説明の際は、ご家族様とご本人様に必ず来て頂くようにしている。話し合いをし納得した上での入居を心がけている。</p>	/	
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月介護相談員の来訪があり、外部者へ表わせる機会を設けている。家族には、面会来所時や手紙などで近況報告を行い、運営推進会議、家族会、懇談会、行事等で家族から意見を頂いている。</p>	<p>利用者は毎月の介護相談員を通して、または日々の関わりの中から意見等の把握に努めている。また、家族からは家族会や、面会時等の機会を通し積極的に意見を聞いている。様々な行事に家族の参加を呼びかけ、職員とのコミュニケーションを大切にし意見を表しやすい関係の構築に努めている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット毎に毎月ユニット会議を開催し、スタッフ間で話し合った意見を聞き、活かすように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や日々の会話の中で、スタッフの希望等を聞き、活かすようにしている。又、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を推奨し、各自が向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や県のグループホーム協議会主催の研修や交換研修に参加し、他事業所の方とも意見交換を行う機会を設けたり、ユニット会議等に研修の内容や情報などを共有出来る様にしている。スタッフが求めている事や力量を把握し、個別に指導を行ったり、勉強会の機会を設けるようにしている。	資格取得の推進を図っている。法人主催の研修や、グループホーム協議会の研修等職員の力量や希望に応じ派遣している。現在の管理者は、事業所の諸問題等に応じたより実践的な研修、勉強会の開催を今後の課題として捉えている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市や県のグループホーム連絡会主催の研修会や交換研修等に参加したりして意見交換を図り、サービス向上に繋げられるようにしている。	グループホーム協議会の研修や交換研修の受入や派遣等を通じて管理者同士又は職員同士の意見交換や情報収集に努めている。	

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接などで本人の現状を把握し、本人の思いや不安に耳を傾け、スタッフ間で共有している。ご家族様、ご本人様からも要望は必ず聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安や要望など聞きながら関係作りを行っている。また、安心できるよう、何でも言えるような雰囲気作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	金銭的なこともあるため、他のニーズに合った施設を紹介することもある。また、現時点で当ホームは看取りを行っていないため、他の施設の情報提供も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、洗濯物干し、塗り絵、新聞たたみ、花の水やりなど出来る所を手伝って頂いたり、特技を生かした手作業を、個々が生き生きと活躍できる場を提供しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月1回の手紙の送付、ケアプラン説明時や電話にて、ご本人様の生活状況を伝え、また、外出、外食等協力できる様促している。これらのやり取りで家族との関係を深めています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り、外食、友人宅への遊び等希望や訴えが確認出来る方には関してはその都度可能な限り対応している。それ以外の方に関しても実行できるように本人との会話やご家族からヒントをもらえるようにしていきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入り、入居者同士が関わりが持てるように支援はしています。また、入居者同士で関係がうまく築けている部分もあるので、そこはそっと見守っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は特に行っていないが、仲の良い入居者様とお見舞い、施設に行ったり、今後の取り組みとして色々な方面より意見を聞き検討していきたい。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様がどのように暮らしたいか、何をしたいか、要望に添って話し合い考えるようにしている。ご家族様、ご本人様に3ヶ月に1度のケアプランのアセスメントでも確認しています。	事業所の基本理念に掲げる通り、「その人らしいあり方をめざし」利用者各々がどのような暮らしを望んでいるか、普段から関わりの中で会話やしぐさ等を通して「気づき」を大切にユニット会議等で話し合い、本人本位に検討している。	
----	-----	--	--	---	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接時に本人や家族から生活歴、生活スタイル、趣味やサービスの利用状況等の聴き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の起床、就寝時間や1日の流れ、得意な事を把握してケアしている。排泄表やバイタルチェック表を用いて健康管理しています。また、日常の様子も記録に残し把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中での気付いた事、考えをユニットで話し合い共有し、統一したケアができるようにしている。また、ご本人様、ご家族様、主治医などの意見も取り入れて、ケアマネだけの考えにならないよう、個々が良い生活ができるように作成している。	3ヶ月毎にモニタリング、計画の評価、再アセスメントを行い、ユニット会議や担当者会議を通じて話し合い、利用者や家族、職員の意見等を反映し計画の見直しを行っている。身体的な課題のみではなく、その人らしく暮らし続けるための計画として、役割や楽しみ事等を加えながら、利用者各々の計画の作成に努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録はプランに沿って行うようにし、その都度評価出来る様にしている。又、連絡ノートを活用し情報をスタッフ全員が共有出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防では避難訓練、行事時等にはボランティアを招き、また、教育機関では、小、中学生の社会体験を受け入れてます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームに主治医がいる為、入居と同時に基本的には切り替えてもらうようにしているが、昔ながらの医院や信頼関係のある主治医を希望されるご家族様には、協力をして頂き昔ながらの医院へ受診したりしている。	従来のかかりつけ医を大切にしながら、協力医療機関も加え、適切な医療が受けられるよう努めている。事業所内での状況等文書で報告する他、家族と一緒に通院する等、医療機関、家族、事業所間での情報の共有に努力している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を2名配置し介護職員と連携を図りながら、日々の健康管理を行い、体調の変化や急変があった場合には相談・指示を仰ぎながら対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際には、グループホームでの生活状況を細かく記入し介護サマリーとして情報提供しています。また、1ヶ月以上の入院治療が必要になるような際にはご家族、病院と連携を取りながら今後についての支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りに関しての指針を定め、家族から同意をもらっている。状態の変化があるごとに、家族に気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、又、医療機関関係者と連携を図りながら、今後について検討するようにしている。	利用者及び家族とは、重度化した場合や看取りについての指針により、入所時、状況の変化時に繰り返し話し合い方針等の共有に努力している。	開設後10年を迎え、主治医との関係や、高齢化の現実を踏まえ、出来ること出来ない事をもう一度整理し、利用者及び家族の安心に繋がるよう検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故研修委員会を設置して学ぶ機会を設けている。各マニュアルも共有し合い日々事故防止に努めている。今後は想定に基づいて心肺蘇生などその実際を個々スタッフが身につくまで具体的な訓練をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練を行い、避難経路や誘導方法の確認、消火器の使用法を確認している。近所の方々との避難訓練などはあまり出来ていないので、町内会長はじめ地域の方々とも協力し合いこれから定着していけるよう働きかけていきたい。</p>	<p>年2回、消防署の立会いや通報、消火、夜間対応等避難訓練を実施している。また、地震等の災害に備えマニュアルの整備や備蓄等も行われている。目標達成計画を受け地域との連携を模索しているがまだ実現出来ていないので、今後も積極的に働きかけ努力していく。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>1人1人に合った声かけをするようにしているが、排泄などでの他者に聞こえるような言葉かけをする時もあるので、今後は気をつけていきたい。</p>	<p>「その人らしいあり方」を大切に一人ひとりの人格を尊重している。言葉かけや対応は、親しみのあまり不適切なものがないように、普段から職員同士注意し合い話し合いを行っている。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>押し付ける事なくご本人様の決定に任せている。個々のペースに合わせた働きかけは常に心掛けています。</p>			
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>最低限やるべき業務としての職員都合がある時はあるかもしれないが、業務の流れもスタッフ間で話し合い、改善してきました。ご本人様のペースで柔軟に対応するように心掛けています。起床、就寝、日中の過ごし方もそれぞれ自由です。</p>			
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>馴染みの美容室にパーマをかけに行ったり、毎朝化粧水やクリーム、ひげ剃りなどをされている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほとんどの方が食事の準備や後片付けなど参加してくださっており今後も継続して行きたい。お粥や刻み食などその方にあった食事形態の提供に努めている。	管理栄養士監修の基に、献立の作成が行われ適切な栄養の提供が行われている。また身体状況に応じた対応も行われている。夕食は各ユニットそれぞれのメニューで、利用者の好みのものになるよう配慮している。買物や調理の準備、後片付け等状況に応じながら職員と利用者が一緒に行い、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は事前に栄養士にチェックして頂き、定期的にはアドバイスを頂いている。また、むせのある方にはとろみをつけたり、刻みで提供したりと個々に合わせ提供している。お茶や牛乳、スポーツドリンク等水分を多く取れる様工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをして頂くよう声がけしています。義歯を使用している方には就寝前に義歯洗浄剤で洗浄を行っている。また、歯科受診なども個々に合わせ行っている。月2回位などの歯科衛生士からの口腔ケア、指導などの歯科往診も今後検討などしていきたい。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表で排泄のパターン確認し、行動や仕草を読み取りトイレ誘導や声がけを行っている。また、失敗しないよう座ってして頂いたり、排泄間隔がある時もさり気なく声がけしたりして、不快がないよう支援している。	排泄表で排泄パターンを把握し適時のさり気ない声かけや対応で、トイレでの排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供したり、水分を多めに取って頂いたり、テレビ体操や散歩等の体を動かす機会も促している。また、メニューを考えて作る夕食も、できるだけ食物繊維を多く摂って頂けるよう心がけ提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴拒否ある方には無理強いせず、タイミングに合わせた声がけをしています。また入りたいと本人の希望があればいつでも優先して入浴もできるようにしています。夕食後以降の入浴はリスク面を考慮して現在行っていないが、今後話し合っていきたいです。	原則入浴時間帯の決まりはない。利用者の希望に応じられるよう努力している。同性による介助や、入浴時間は利用者の希望に沿うよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、寝具の工夫や清潔に心掛け、また、日中の活動を多くし、夜間安眠して頂ける様になっています。また、昼食後も個々に合わせ、昼夜逆転しない程度に休息も取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスの無い様に薬チェック表を作り確認しながら薬の準備、服薬に対応している。薬の変更等あれば申し送りや連絡ノート等でスタッフ全員に伝えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに役割を持って頂き、散歩や日なたぼっこ、近所への買い物などの気分転換を行っている。本人の生活歴や趣味などを把握し、何が楽しみなのか？決して強要せず個々に合わせて楽しんで頂けるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜や紅葉のシーズンはご家族様参加の遠出、外出を計画、行っている。天気の良い日もドライブ等行っています。墓参り、帰省など家族様の協力を得ての外出や本人様希望での病院へのお見舞いなど気軽に出かけられるように支援しています。	行事としての遠出、外出の他、その日の天候等を配慮したドライブ、買物、散歩等戸外に出掛ける機会を確保し利用者の気分転換を図っている。また、家族の協力を得ながら帰省や墓参り、馴染みの場所への訪問等、利用者各々の希望に応じた支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り自己管理して頂き、買い物等や外出した時に、ご本人様に支払って頂きたいが、ほとんどの方が預かりとなり、スタッフが支払っているのが現状です。できる方には自己管理して頂くなど今後検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら手紙を書いたり、電話をすることはありません。希望があれば柔軟に対応したいです。月1回の写真付きのお便りで近況を伝えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に注意し、リビングには季節に合った物を飾り、ベランダにもその季節の花や野菜など取り入れ、季節を感じてもらっている。各居室も本人の使い慣れた物を置いたり本人様が過ごしやすい環境作りを心掛けている。	温度・湿度は時間を定めて定期的に確認し調整を行っている。飾りつけも季節感を表現し、あまり派手過ぎず、思い出の行事の写真等が掲示され、家具等も家庭的なものを揃え、居心地よくするよう配慮されている。既存建物を活用しているが、段差等工夫され、随所に安全の為の工夫が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々同士でお互いの部屋を行き来したりしながら過ごしている。ベンチに座って過ごしたり、和室で座って過ごすしたり、各々が自由に過ごしている。玄関ホールにもベンチがあり外出前や外出後に気の合う方々と座って少しお話ししていく方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や時計などを持ち込んで頂く様ご家族様に働きかけています。またお位牌を持ち込まれている方もいます。	居室は利用者各々の馴染みのものが持ち込まれ、家具や飾り付けが思いおもいに配置されている。利用者の状況に応じ、畳に布団の対応も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわかり易いように名前をドアに張ってある。又夜間、心配で鍵を掛けて休まれる方、入り口に電気をつけて段差がわかるようにしている方もいます。		